

# JICE研究開発助成



藤村 万里子

情報・企画部  
上席主任研究員

## 1. JICE 研究開発助成の概要

研究開発助成制度は、各分野の先進的技術の研究開発を促し、住宅・社会資本整備を通じてより良い国土の利用・整備又は保全に寄与することを目的として、平成11年に創設した事業です。毎年多くの研究開発を応募していただき、研究開発助成審査委員会において厳正な審査により優れた研究開発に対して助成を行っています。制度創設から平成27年度までの17年間で延べ225件の研究に対し助成を行いました。

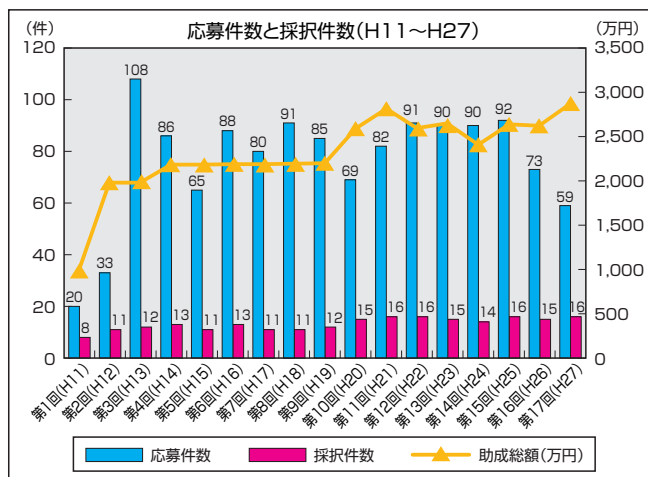


図1 JICE研究開発助成 応募件数と採択件数推移

JICE研究開発助成は、建設分野のみに留まらず、人文系、自然科学系等の各分野の研究において社会資本整備に資する幅広い研究内容を応募していただきたいと考えています。平成27年度においては、①応用研究課題（安全に安心して暮らせる国土、人・もの・情報が効率的に通いあえる国土、心豊かに暮らせる快適で美しい国土の実現に寄与する研究開発）、②重点研究課題（水害リスク分析や道路空間の有効活用、接続可能な都市・地域の構築、建設生産システムなど国土交通行政の展開に資する研究開発、社会資本の戦略的な維持管理に関する研究、等）について募集を行い、59件の応募を受け付けました。これらの応募研究に対して、研究開発助成審査委員会における審査の結果、16件の研究を助成研究として採択し、今年度、研究を実施していただいています。

## 2. 第16回研究開発助成 成果報告会

研究成果につきましては、その先進的な研究による知見をより多くの皆様に役立てていただくために、研究成果の発表の場として研究開発助成成果報告会を開催しています。土木学会認定の継続教育（CPD）プログラムの認定を受け公開にて実施し、専門技術者の継続的な技術研鑽にも活用していただいています。

今年度の成果報告会は平成28年5月25日（水）にJICE会議室において開催し、平成26年度に第16回研究開発助成として採択され平成27年度に実施した15件の研究の研究成果について報告を行っていただきました。参加者数は延べ110名を超え、研究に対する活発な質疑があるなど、新たな技術への関心が寄せられました。



写真 第16回研究開発助成 成果報告会の様子

表 成果報告された研究課題一覧（発表順：敬称略）

	研究課題名	研究者名
1	時空間相関を考慮した地先の水害リスクの評価方法に関する研究	京都大学防災研究所 社会防災研究部門 防災社会システム研究分野 教授 多々納 裕一
2	地震時の堤防道路の通行機能に着目したフラジリティカーブの構築	大阪大学大学院工学研究科 地球総合工学専攻 助教 秦 吉弥
3	階層型道路ネットワークのわが国への適用に向けた研究	日本大学理工学部 交通システム工学科 教授 下川 澄雄
4	復旧期間を考慮した橋梁と盛土の地震時安全性の整合化に関する研究	東北大学大学院工学研究科 土木工学専攻 助教 松崎 裕
5	多種道路施設に対応する普及型維持管理戦略決定支援システムの構築	岐阜大学工学部 社会基盤工学科 教授 高木 朗義
6	カエデの種型風車を用いた被災地と震災時における電力確保のための小型風車に関する研究	福島大学 共生システム理工学類 教授 島田 邦雄
7	東海・東南海・南海巨大地震における都市型構造物の杭基礎による連鎖崩壊メカニズムの解明	東北大学 未来科学技術共同研究センター 教授 木村 祥裕
8	国土強靱化に資するレジリエンス・コミュニケーションに関する研究	京都大学大学院工学研究科 都市社会工学専攻 教授 藤井 聡
9	小学校における近代土木遺産を対象とした社会資本学習の授業モデル構築に関する研究	玉川大学教育学部教育学科 教授 寺本 潔 (代理発表：田山修三)
10	ビッグデータを活用した「オリンピック後」を見据えた建設産業構造に関する研究	徳島大学大学院 ソシオテクノサイエンス研究部 助教 森本 恵美
11	建設生産システムにおける価格決定構造に関する研究	日本大学危機管理学部 (元：生産工学部 土木工学科) 教授 木下 誠也
12	高齢者の冬期集住と都市住民の夏期滞在による持続的地域居住へに向けた実践的研究	北海道大学大学院工学研究院 建築都市空間デザイン部門 空間計画分野 助教 野村 理恵
13	自然に学ぶ海岸構造物の自己修復技術に関する研究	北海道大学大学院工学研究院 環境循環システム部門 教授 川崎 了
14	洪水氾濫解析のための縮約モデルの開発	京都大学大学院工学研究科 社会基盤工学専攻 准教授 市川 温
15	パイピング・盤ぶくれを考慮した河川堤防の総合的な信頼性解析法の開発	新潟大学自然科学系 准教授 大竹 雄

これらの研究の成果概要、発表資料についてはJICEホームページの研究開発助成事業で掲載しているので、あわせてご覧頂きたいと思います。

(<http://www.jice.or.jp/review/assistances/results>)

### 3. 第18回研究開発助成 募集

平成28年度についても、第18回研究開発助成の助成対象の募集を実施する予定です。

助成の対象は、平成27年度と同様に住宅・社会資本整備に係わる先進的な研究・技術開発とし、応用研究課題、重点研究課題としてそれぞれ課題を設定します。また、助成対象とする研究者は、原則として大学、高等専門学校及びこれらに付属する機関等の研究者または民間企業の研究者（学生は対象から除外）としており、助成額は1件につき原則として単年度200万円以内（税込）、1つの研究テーマに対する研究開発助成は2ヶ年を限度としています。

募集期間は、平成28年8月～10月までを予定しており、助成対象の決定は平成29年3月ごろを予定しています。そして、助成決定翌日より平成30年3月末までを助成期間として研究を進めていただくことになります。

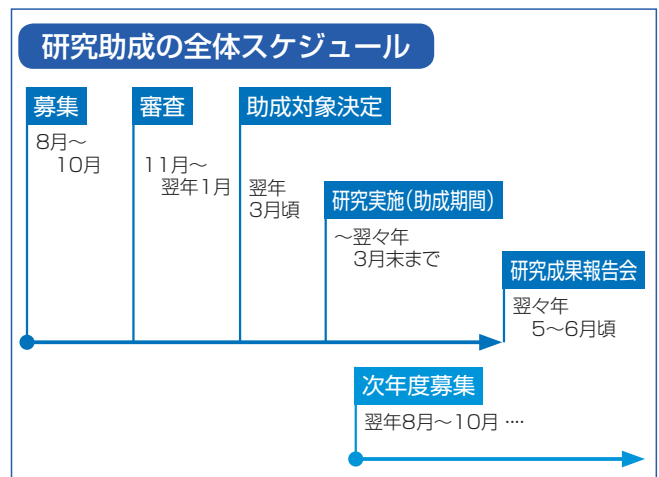


図2 JICE研究開発助成 全体スケジュール

詳細は、募集開始後にJICEホームページに掲載することになっています。是非ご覧いただき、積極的な応募をお待ちしています。